

2018 年度研究会活動報告

「超高齢社会の医療と介護に関する研究会」

1. 研究課題（研究会名）

超高齢社会の医療と介護に関する研究会

2. 概要・目的

本研究会の目的は、現代日本という超高齢社会の医療・介護（特に介護）について、労働・ジェンダー・そしてグローバル化の観点から検討を行うことである。高齢者の医療と介護の受容は現在すでに高い水準にあるだけでなく、今後も需要増大が見込まれる一方、介護労働力は現在でも不足している。その理由を明らかにし、この深刻な問題の解決に近づくためには、日本における介護サービス市場をとりまく社会のありようについての適切な理解と、解決すべき課題の明確化およびコンセンサス形成、さらには実証的根拠に基づく問題解決策の提案が必要である。そこで、2017年度には介護サービス市場における日本のローカルな特色とそれに付随する問題に焦点化したシンポジウムを開催した。第1報告では山根純佳氏（実践女子大学准教授）が、日本における介護サービス提供史をたどりつつ、介護労働をめぐる社会的な状況とその変化について、「準市場」と「ジェンダー」を鍵概念として論じた。次に第2報告では、花岡智恵氏（京都産業大学准教授（当時））が、介護労働力供給と賃金との関係に関する経済学の知見が現在どのような到達点にあるのかについて、明らかにした。また第3報告では、介護労働と賃金に関する社会学の知見として、大槻奈巳氏（聖心女子大学教授）が、医療・介護労働者の職務評価と是正賃金についての実証的な調査研究結果について述べた。このようなプロセスを経て、介護労働と賃金に関し解決すべき課題についての論点を共有したうえで、介護労働力不足解決のためにどのような対策や政策的対応を行うべきであるのかについても議論が行われた。このシンポジウムの記録は『現代社会研究』15号に掲載している。

3. 主査・メンバー（構成）

[主査] 和田尚久（企画委員長、国際観光学部教授）

[研究会メンバー] 村尾祐美子（社会学部准教授）、須田木綿子（社会学部教授）、和田佐英子（宇都宮共和大学教授）

4. 今年度の活動・成果報告等

今年度の本研究会では、介護サービス市場のグローバル化に着目し、海外における外国人介護労働者に焦点化したシンポジウムの企画立案を中心とする活動を行ってきた。2019年3月12日に「海外における介護労働：グローバル化とジェンダーの視点から」を開催予定である。当日は、第1報告で安里和晃氏（京都大学大学院准教授）が、外国人介護従事者の受け入れ先社会における位置づけについて、福祉レジーム比較を用いて論じてゆく。次に第2報告では、陳正芬氏（中國文化大學教授）が、台湾における外国人介護従事者の状況および制度について、ジェンダーの視点から整理しつつ述べる。また第3報告では、宮崎理枝氏（大月短期大学教授）が、イタリアにおける外国人介護従事者の状況および関連する制度について紹介する。このようなプロセスを経て、海外における介護労働のグローバル化の経験をジェンダーの視点からも位置づけてゆくとともに、こうした海外の経験が日本に与える示唆に関しても議論を行ってゆく。各報告には日本語・英語の逐次通訳をつけるため、研究者はもちろんのこと、学部学生や実務家といった幅広い層の聴衆の参加が期待される。